

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」

ヨハネによる福音書3章16aより



きょうかいがっこうれいはい
教会学校礼拝プログラム

2025年12月7日

前奏
*賛美
お祈り

「主を待ち望むアドヴェント」こどもさんびか改定版65

天の父なる神よ、御名を賛美します。このせわしない世界にイエスさまを遣わしてください
感謝します。私たちに、変えられないものを受け入れる力、変えられるものを変えていく
勇気、そして変えられないものと変えられるものを見分ける知恵を与えてください。この世界を
あなたの御心に従って生きていくことができますように。私たち皆の救い主イエスのお名前を
通して祈ります。アーメン

聖書

しんとてがみしようせつ にほんせいしょきょうどうやく しんやくせいしょ
ローマの信徒への手紙12章9～21節 【日本聖書協会共同訳】 (新約聖書286ページ)

交説詩編
説教

リタニー

「キリスト者に求められる知恵と犠牲」

暗唱聖句

キリストを信じて生きるとはどういうことなのでしょうか。なにをすればよいのでしょうか。なにを目指せばよいのでしょうか。ローマの信徒への手紙はパウロが西暦50年代に書いた手紙です。約2000年も前にパウロによって書かれたこの手紙は、今こうして私たちのもともとにも届き、私たちに直接語りかけています。この2000年の間に私たちを取り巻く社会と技術は大きく変化しましたが、人間の性質が変わったわけではありません。昔の人たちも私たちと同じ心を持っていたし、私たちは昔の人々と同じ過ちを日々おかしつづけています。昔も今も、変えられないものと変えられるものを区別するための知恵が私たちキリスト者には求められています。これは教科書で学べる知恵ではありません。もっと重要な知恵なのです。そしてキリスト者には、「変えていく」勇気が必要なのです。アドヴェントのこの時期に、ちょっと立ち止まって、キリストを信じることについて考えてみましょう。

默想タイム

よろこものともよろこなものともな 「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」ローマの信徒への手紙12章15節

*賛美

「きけ、あれのから」讃美歌21-237

献金と感謝のお祈り 24-1

*主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我
らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救い いたしたまえ。
國と力と栄えとは、限りなく なんじのものなればなり。アーメン

お知らせ

- アドヴェント第2週目に入りました。クリスマスにイエスさまをお迎えする準備をしましょう。
- 分級ではページェントの練習があります。
- 次週は、教会学校のクリスマスです。午後2時からリハーサル、3時から5時まで本番です。

*賛美
*祝福
*後奏

36 今までかけよう

やぎひろしほくし

八木浩史牧師

9 愛には偽りがあつてはなりません。惡を退け、善に親しみ、10兄弟愛をもつて互いに深く愛し、互いに相手を尊敬し、11怠らず励み、靈に燃えて、主に仕えなさい。12希望をもつて喜び、苦難に耐え、たゆまず祈り、13聖なる者たちに必要なものを分かれ、旅人をもてなすよう努めなさい。14あなたがたを迫害する者を祝福しないでください。祝福するのであって、呪つてはなりません。15喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。16互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者と思ってはなりません。17誰にも惡をもつて惡に報いることなく、すべての人の前で善を行なうよう心がけなさい。18できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に過ごしなさい。19愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐は私のすること、私が報復する』と主は言われると書いてあります。20「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」21惡に負ることなく、善をもつて惡に勝ちなさい。

<さんび>

主を待ち望むアドヴェント

1. しゅをまちのぞむアドヴェント さいしょのろうそくともそう
しゅがみちをそなえられた このときをまもろう
* (くりかえし) しゅのたみよ、よろこべ しゅはちいかい
2. しゅをまちのぞむアドヴェント だい2のろうそくともそう
しゅがなされたそのように たがいにたすけよう *
3. しゅをまちのぞむアドヴェント だい3のろうそくともそう
しゅのめぐみてりかがやき くらやみをてらす *
4. しゅをまちのぞむアドヴェント だい4のろうそくともそう
しゅはこのよにきたりたもう こころこめうたおう



きけ、あれのから

(讃美歌21-237)

- 1 きけ、あれのからとどくこえを。
「みちをそなえよ、しゅがこられる。
たにまはたかく、おかはひくく、
でこぼこのみちは たいらになれ」
- 2 みよ、くさばなは かれてしほむ。
ひとはみなくさ、のにさくはな。
このよのさかえ ゆめときえる。
みかみのことばは とこしえまで。
- 3 よいおとずれを つたえるもの、
やまやまをゆき、こえをあげよ。
「よろこびうたえ、シオンのたみ、
おおなるみかみが いまこられる」
- 4 しゅはくにぐにの あいだにたち、
あくをただして おさめられる。
ひつじかいなる しゅはわれらを
へいわのまきばに ともなわれる。

